

## 自分も世界も未来へ向かって ～パラグアイとの出会いから～

<b>所属</b>	三重県伊賀市立阿山中学校	<b>実践者</b>	大澤 健人
<b>対象</b>	中学校2年生	<b>時間数</b>	13時間
<b>場所</b>	教室・体育館	<b>実践教科</b>	社会
<b>ねらい</b>	<p>テーマ【異文化理解、SDGs、コミュニケーション、キャリア、自己理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラグアイとの肯定的な出会いから、世界と日本・世界と自分のつながりを実感する。</li> <li>・世界が直面している課題をSDGsから学び、解決のために私たちができることを考える。</li> <li>・さまざまな国の現状を知ること視野を広げ、あたり前になっている自分の「幸せ」に気づく。</li> </ul>		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1	<p>パラグアイについて知る【フォトランゲージ・ブレンストーミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここはどこ？(テレレ・文化・国旗・町並み・日系社会…)</li> <li>・あなたがもつイメージは？(パラグアイ・開発途上国…)</li> <li>・行ってみたらホントはこんなトコだった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師海外研修の写真</li> <li>・世界地図・国旗</li> <li>・テレレセット</li> <li>・パラグアイ紙幣</li> </ul>
	2-3	<p>○2～8回は社会科の授業内容に関連づけて取り入れる参加型学習を体験する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> </ul>
	4-8	<p>【派生図・重みづけ・ギャラリー方式・リストアップ】</p> <p>パラグアイについて知る②【フォトランゲージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然トンネル→農業</li> <li>・小農家→畜産</li> <li>・ニャンドウティ→伝統工芸品&lt;動画&gt;</li> <li>・開発と雇用→持続可能な社会</li> <li>・トリニダの遺跡→歴史</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物「ニャンドウティ」</li> <li>・教師海外研修の動画</li> </ul>
	9	<p>パラグアイについて知る③ ※文化祭展示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材「パラグアイBOX」</li> </ul>
	10-11	<p>SDGsから世界の現状を学び、私たちができることを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsを学び、世界や日本が直面している課題と向かいあう</li> </ul> <p>【ポップコーン方式・派生図・ギャラリー方式・重みづけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決のために頑張る人の生き方に学ぶ&lt;動画&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子「私たちが目指す世界」</li> </ul>
	12-13	<p>世界の国々から学ぶ【フォトランゲージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここはどこ？(12カ国を取り上げた)</li> <li>・パラグアイの日系社会から気づく&lt;動画&gt;</li> <li>・あなたにとって今なくなったら困ること・ものは？</li> <li>　　&lt;パラグアイと日本をむすぶアンケート&gt;</li> <li>・幸せのとらえ方 &lt;世界がもし100人の村だったら&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材「国際理解カード」</li> <li>・図書「世界がもし100人の村だったら」</li> </ul>
<b>成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地に行ったからこそわかる、その国の空気感や人々の表情・声を大切にして授業を行うことができた。</li> <li>・国際理解や他者理解を通して自分を振り返り、生徒1人1人の視野や考え方を広げることができた。</li> <li>・通常の社会科の授業と並行して行うことで、既習内容とつなげたスパイラルな学びができたと感じている。</li> </ul>		
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「気づきから行動するためのスキル」へつなげる手立てが弱く、これからも実践し続けていく必要がある。</li> <li>・教材ありきの授業ではなく、目の前にいる生徒の姿に合わせて授業を組み立てなければならない。</li> <li>・限られた時間のなかで一貫性をもつプログラムを実施できず、断片的な学習になってしまった。</li> </ul>		
<b>備考</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体でペア・グループ学習を取り入れた授業を行っており、主体的に考え学びあう習慣ができていたため、班活動が停滞することも少なく、生徒の力に助けられる部分も多かった。</li> </ul>		

## [授業実践の詳細]

### 1 時限目「パラグアイについて知る」

#### この時限のねらい

- ・パラグアイを身近に感じ、自分たちとは異なる文化をおもしろいと思う。
- ・自分のなかの思い込みに気づき、正しく知ることの大切さを学ぶ。

#### 1 児童生徒の活動の流れ

- ① 右の写真を見て、ここはどこかを予想する。  
また、写真からわかることを書きこむ。【フォトランゲージ】
- ② パラグアイについて知っていることやイメージを書く。  
書いたことを班で発表し交流する。【ブレンストーミング】
- ③ 開発途上国や南米の国のイメージを確認する。
- ④ パラグアイについて知る。  
(テレレ、アサード、チパ、コシード、地図、国旗、スーパー、ゴマ、学校、町並み、紙幣…など)
- ⑤ 本時の感想を書く。



<ここはどこ？本当に日本？>

#### 2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 最初は日本・お寿司という意見が出るが、じっくり写真を読みとると「外国？」という声が出た。  
「レジを打つ女性や後ろのラベルから外国だ」というように意見が広がった。
- ◇ 生徒はパラグアイについて知っていることが少なく、南米の国、サッカーが有名といった程度であった。
- ◇ 生徒は開発途上国に「貧しい」「不便」「怖い」というようなイメージをもっていることが多かった。  
自分もつ先入観や思い込みに気づき、振り返る機会になった。
- ◇ さまざまな写真を見ながら、研修についての話を聴くことで、パラグアイという国に興味をもった。  
日本とのちがいを肯定的に受け入れたり、日本とのつながりに気づいたりすることができた。

#### 3 使用した教材

- <教材1> パラグアイの写真(教師海外研修より)
- <教材2> 世界地図・国旗
- <教材3> テレレ・グアンパ・シェルバ・ボンビージャ
- <教材4> パラグアイ紙幣

### 2-3 時限目「参加型学習を体験する」

#### この時限のねらい

- ・自分の意見を伝えること、他者の意見を聴くことで、自分や班の考えが広がっていくことを実感する。
- ・学習活動のなかで、自分にできること・意識しておくべきことを見つけることができる。

#### 1 児童生徒の活動の流れ

- ・避難訓練に合わせた防災学習のなかで取り入れた。

- ① 大地震後の生活についてイメージし、ライフラインの確保について知る。  
電気・ガス・水道・食料・交通 を中心に書き、【派生図】を書く。
- ② できあがった班の意見を【重みづけ】し、大切にしたいことを赤線で引く。
- ③ 他の班の考えを【ギャラリー方式】で知り、いいなと思ったものに☆を書く。
- ④ クラスの意見を含んで、1番大切にしたいことを【リストアップ】する。
- ⑤ 世界には厳しい生活環境のなかで暮らす人々がいることを知る。



<カテウラの写真>

## 2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ ギャラリー方式での交流で、自分の班に戻ってきたとき、「めっちゃ☆ついてる」「〇〇さんのやつ☆多いで!!」などの声が聞こえてきたのが印象的であった。
- ◇ 班で協力しながら課題にとりくむことで、自分1人では考えつかなかった意見まで深めることができた。また、肯定的に反応することで、楽しく活発な雰囲気がうまれ、生徒は自然に学びあえるのだと実感した。



<ギャラリー方式での交流のようす>

## 3 使用した教材

<教材5> カテウラパワーポイント

# 4-8 時限目「パラグアイについて知る②」

### この時限のねらい

- ・継続的にパラグアイと肯定的に出会うことで、国際理解についての視野を広げる。
- ・社会という教科で学ぶ内容が、実際にパラグアイの現状につながることを知る。

## 1 児童生徒の活動の流れ

- ・週に1回20分程度で①～⑤を授業のなかで取り入れた。
- ① 自然トンネルを通して農業を考える。【フォトランゲージ】
- ② 小農家のようすを通して畜産を考える。【フォトランゲージ】
- ③ ニヤンドウティを通して伝統工芸品を考える。【フォトランゲージ】  
<動画 自分を変えるのではなく、自分が変わる>
- ④ 開発と雇用を通して持続可能な社会を考える。【フォトランゲージ】
- ⑤ トリニダの遺跡を通して歴史の見方を考える。【フォトランゲージ】



<ニヤンドウティの拡大写真>

## 2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 学習する内容と世界の現状を結びつけ、パラグアイに対する興味と学習意欲を高めることができた。

## 3 使用した教材

<教材6> パラグアイの写真・動画(教師海外研修より)

## 9 時限目「パラグアイについて知る③」

### この時限のねらい

- ・文化祭という場で自分が経験したことを伝えることで、全校生徒へ自分の気づきや学びを広げる。
- ・パラグアイだけではなくSDGsについても展示し、世界が直面している課題を知る機会とする。

### 1 児童生徒の活動の流れ

- ・文化祭で、研修で経験したことやパラグアイについて説明を聴き、展示見学を行った。

### 2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 展示見学の内容について興味をもち質問などに来た生徒が多数いた。  
文化祭の企画の1つである抽選くじでニヤンドゥティが当たった生徒も質問に来ていた。



<パラグアイ展示見学のようす>

### 3 使用した教材

<教材7> パラグアイBOX

<教材8> MMI-LAC(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)『私たちが目指す世界』2016、JICA 他

## 10-11 時限目「SDGsから世界の現状を学び、私たちができることを考える」

### この時限のねらい

- ・世界や日本、自分に身近な地域のさまざまな課題について自分なりに向かい合うことができる。
- ・JICAなど世界の課題解決のために活動する人々と出会い、これからの自分の生き方につなげる。

## 1 児童生徒の活動の流れ

- ① 「開発」からイメージすることや知っていることを書く。【ポップコーン方式】
- ② <冊子 私たちが目指す世界> を読みあい、「開発」についての考えを広げる。
- ③ SDGsの17つの目標について知り、それぞれの課題について【派生図】を書く。  
その時、必ず他の班員の意見から自分の意見を付け足すようにした。
- ④ 他の班の考えを【ギャラリー方式】で知り、いいなと思ったものに☆を書く。  
その後、他の班の【派生図】に自分の班の意見を付け足してもよいとした。
- ⑤ できあがった自分の班の意見を【重みづけ】し、大切にしたいことを赤線で引く。
- ⑥ カテウラ地区のファビオさんの生き方に学ぶ。<動画 演奏のようす、モノでは人は変わらない>
- ⑦ 青年海外協力隊の生き方に学ぶ。<動画 現地で体験するからこそわかること  
早く行きたければ1人で行け、遠くへ行きたければみんなで行け>

## 2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 「開発」という言葉に対して、街の発展やモノの技術、ビルや道路などのインフラ面…という声が出た。冊子から「みんなが安心して、自分の能力を十分に発揮しながら満足して暮らせるようにすること」という新しい視点にふれ、国と国との関係も人と人との関係から始まることを学んだ。
- ◇ 【派生図】の手法において、「聴く」「伝える」「反応する」といった手順を付けくわえることで、どの生徒も参加・交流しやすくなったと感じた。また、自分や班の意見に自信をもって、発表できていた。
- ◇ 実際に現地で課題解決のために活動する人々の言葉は生徒の心へ残るものである。授業後の振り返りでは、「なんか勇気をもらった」「自分も目標に向かって頑張ろうと思った」などの感想が多かった。



<持続可能な開発のためのグローバル目標を達成するために>

## 3 使用した教材

- <教材9> MMI-LAC(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)『私たちが目指す世界』2016、JICA 他
- <教材10> パラグアイの動画(教師海外研修より)

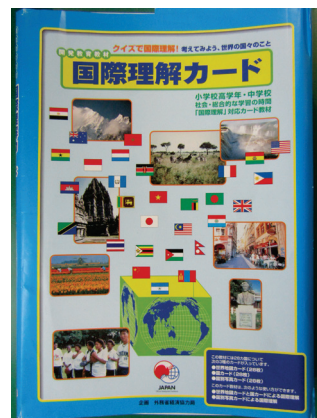
## 12-13 時限目「世界の国々から学ぶ」

### この時限のねらい

- ・パラグアイの日系社会から、日本とパラグアイがつながっていることに気づく。
- ・自分のあたり前が世界のあたり前ではないという意識をもつ。
- ・現在の自分を振りかえり、「幸せ」について自分なりに考えることができる。

### 1 児童生徒の活動の流れ

- ① 班ごとに <国別写真カード(赤色)> を使って写真 1~3 から気づいたことを書く。【フォトランゲージ】
- ② 板書した国名のなかから自分のカードの国を予想する。  
その後、<世界地図カード(黄色)> で答え合わせをする。
- ③ パラグアイカードの日系社会から、移民した日本人の活躍を知る。  
<動画 パンパから見た日本、宮里さんの宝物、外国へ出てわかること>
- ④ アンケートから、あなたにとって今なくなったら困ること・ものを考える。  
その後、それらが今あなたの手元にあるという幸せを実感する。
- ⑤ <世界がもし 100 人の村だったら>を読んだあと、本時の感想を書く。



<班活動のようす>

**国別写真カード**

1

2

3

**Quiz**  
のこたえ

**C. イグアス滝**

パラグアイ共和国は南アメリカ大陸のほぼ中央にある国で、アルゼンチン、ボリビア、ブラジルに囲まれています。イグアス滝は、この3つの国の境にあります。大小合わせて200以上の滝が、幅4kmにわたって広がり、滝の落差は、高いもので100mを超えます。世界中から多くの人が訪れ、その大きさに、たれものが圧倒されます。

※ナイアガラ滝：アメリカとカナダの国境であるナイアガラ川にある滝です。ゴート島という島で2つに分かれ、右側のアメリカ滝は幅300m、落差51m、左側のカナダ滝は幅500m、落差49mあります。

※ビクトリア滝：アフリカ南部、ジンバブエとザンビアの国境になっているザンベジ川上流にある滝です。幅1700m、落差は110~120mあります。

**写真の説明**

1 これは何でしょう。

世界3大瀑布のひとつとして有名なイグアスの滝です。パラグアイ、ブラジル、アルゼンチンの国境にあり、大小合わせて200以上の滝からなっています。大きな滝と小さな滝とで、滝の落差は高いもので100mを超えます。世界中から多くの人が訪れ、その大きさに、たれものが圧倒されます。

2 この建物は何だと思いますか。

パラグアイの首都アスンシオンにある大統領府です。アスンシオンの正式名称は「ヌエストラ・セニョーラ・サンタ・マリヤ・デ・ラ・アスンシオン」といいます。この建物は、1962年に完成し、世界遺産に登録されています。

3 この人たちは何をしていますでしょうか。

これはアスンシオン市にある養護学校の風景です。養護学校の先遣隊である日本は、養護教師をパラグアイに派遣しています。写真は日本人養護教師が学校で、生徒と交流している様子です。生徒は日本人養護教師が学校で、生徒と交流している様子です。

<教材 国際理解カード パラグアイ>

### 2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 自分たちとは異なる文化をもつ国やそこに住む人々の生活に積極的に目を向けることができた。また、さまざまな国について知ることで、あらためて日本の良さや自分の幸せについて振り返ることができた。アンケートに答えまわりの友達とワイワイと交流する姿と、<世界がもし 100 人の村だったら>を真剣な表情で読む姿の対照的な雰囲気が印象的であった。

● 63 ●

◇ 生徒の振り返りから一部抜粋する。

「なくなったら困るものがなんなのかに迷うくらいたくさんのが自分のまわりにあることに気づいた。」

「少しのことに幸せを見出せていけることが大切だ。安心できるかどうか豊かさにつながるのかも。」

「わたしは自分とまわり・みんなが笑っていられたら私は幸せなんだと思っている。」

「自分を愛せたら自然と幸せになると思った。」

「みんな1人1人がまったく違う人間たちで住んでいることでさえもすごいことなのかなと感じた。」

「私は『幸せ』とは何なのか理解できずにいました。だけど、この本を読んで、私の『幸せ』は当たり前のことだったから気づかなかったのだということを知りました。」

「どこの国も自立できたらみんなが競い合わなくてもみんなが幸せなのかなと思った。」

### 3 使用した教材

<教材11> 外務省経済協力局『国際理解カード』2000、国際協力推進協会

<教材12> アンケート「パラグアイと日本をむすぶアンケート」(教師海外研修より)

<教材13> 池田香代子(C.ダグラス・ラミス)『世界がもし100人の村だったら』2002、マガジンハウス

## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子



<学びあう様子>

### 2 参考文献・資料

- 1) JICA 中部 開発教育指導者研修 資料
- 2) JICA 中部 2016 年度 教師海外研修 報告書